

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	瀬棚高齢者グループホーム はるかぜ	評価実施年月日	平成20年 3月
評価実施構成員氏名	高木康子、旭友紀子、平田大貴、稲垣香澄、石田里美 天羽恵理花、柳川智佳子		
記録者氏名	平田大貴	記録年月日	平成20年 3月 21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>現在の理念には、地域密着という観点で文章化されていないが、「その人らしい生活の継続を支え、地域交流や地域資源の活用を心がけたケア」に取り組んでいる。</p>	○	開設2年目を迎えるに当たり、職員全員で理念を見直し、地域密着の観点を明確にした理念を作成予定している。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>カンファレンスやケアプラン作成は、理念の具体的実践として話し合いがもたれており、共有され、日々のケアも基本理念に基づいて取り組んでいる。</p>	○	その人らしく生活していただくために、個別の時間を大切にるように取り組んでいきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居時には、できるだけ地域の行事等への参加や地域の商店や馴染の美容室等にも積極的に出かけて行くことを家族に説明し了承を得て、運営推進会議や地域交流会、施設見学者等を通じて理解を呼びかけている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>気軽に挨拶を交わし、隣近所の方々からは、日常的に野菜の差し入れや収穫をさせていただいたり、除雪の支援を受けている。近所の方から差し入れされたもち米で、地域交流餅つき大会を開催するなど交流を深めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の一員として、町内会に加入しているが、活動参加の呼びかけなし。地域の温泉祭り、ふれあい広場、神社祭典等に参加。図書館を利用している。「支える会」の主催の研修会に職員が参加。また、入居以前に活動していたボランティア活動に継続して参加できるように支援をしている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>認知症サポーター養成講座の出前講座や認知症の相談を受け入れていることを町の広報誌で周知しているが、講座の実施に至っていない。</p>	○	認知症サポーター養成講座の出前講座や認知症の相談を受け入れていることの周知を図り、積極的に活用していただけるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各自で評価後、職員全体で討議し、取り組みの改善点を明確にできた。	○	サービス評価の意義や目的の理解を深め、評価の結果を改善計画に活かし、取り組んでいきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議での意見をサービス向上に反映させている。(おたより発行等におけるプライバシー保護の提案を受け、写真掲載の配慮や配布先の制限等)	○	運営推進会議構成メンバーが農業に携わっている方が多く、農繁期の開催には出席できないことが多く、開催時期の配慮が必要である。(2回開催)
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	月2回開催のサービス検討会議(町担当者、包括支援センター、他事業所)に出席し、情報交換や事例の検討を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度については研修を受けているが、職員全体に周知されていない。現在、利用者で活用している方はいません。	○	今後、制度の理解を深め、必要な方に活用していただけるよう取り組んでいきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注を払い、防止に努めている。	開設前研修で、身体拘束防止、リスクマネジメントとして周知し、安全対策マニュアルを作成。身体拘束防止研修会に参加し、報告書作成し職員が見れるようにしている。着替えや入浴時に傷やアザを発見した時は管理者に報告し、原因を明確化し虐待の事実がないか把握に努めている。今後尊厳ある暮らしの実現を求め、精神的虐待防止の視点からケアを見直したい。	○	計画的な研修を重ね、尊厳ある暮らしの実現に取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族等に不安のないように十分な説明を行い、理解が得られるように努めている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で、利用者が直接意見を述べる機会が設けられている。日常生活の関わりの中で、職員が個別に意見や不満を聞き取ることがあり、カンファレンス等で検討し改善に取り組んでいる。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回「はるかぜだより」、預かり金出納報告を発行している。そのときの表情が分かるように個々の写真も添付している。普段から家族の面会時には、利用者の暮らしぶりをお話する時間を持っている。健康状態の変化や受診の報告は随時電話で報告している。職員の異動に関しては家族への報告はしていません。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で、外部に意見等を表す機会を設けている。また家族交流会で意見を伺う機会を設けている。家族が面会に来所された際、できるだけお話が聞けるように全職員が声がけするようにしている。意見や不満が寄せられた時はカンファレンスやミニカンファレンスを開催し、謝罪や改善策を説明している。	○	家族、職員が一体となり利用者を支えていく体制を作って行きたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、夜勤者、遅番を除く職員全員でカンファレンスを開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけや聞き出しをするように努めている。運営者との面談が設けられ、運営に反映されている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者、家族の要望に沿えるように、柔軟に勤務の調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は「馴染みの関係」の大切さを重視しており、職員の異動や離職を必要最小限に抑えるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は、閲覧するようになっているが、職員全体の質の向上につながっていない。</p> <p>法人内研修は計画的に実施できていない。</p>	○	法人外研修を受講した職員が中心となり、法人内研修を計画的に実施していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>月2回のサービス担当会議に管理者が出席し同業者との交流を深めている。</p> <p>同事業所の他グループホームでの実習を行っている。</p> <p>研修や出張を利用して、他グループホームを訪問するように心がけている。</p>	○	関連の事業所との交流機会を持っていない職員もあり、計画的な研修を設け、質の向上に努めたい。全職員を対象に、他グループホームへの交流、研修を予定している。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>焼肉パーティや忘年会を開催し、ストレス解消の機会が設けられている。</p> <p>運営者との面談があり、悩みや提案を話す機会が設けられている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務状況や各職員の努力や資格習得を把握しており、各自が向上心をもって働けるよう配慮されている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>管理者が中心になり訪問し、本人から話を聞きとりし、不安や求めていることを受け止める努力をしている。施設訪問の際は、全職員が聴く姿勢をもち、対応している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>管理者が中心になり訪問し、本人から話を聞きとりし、不安や求めていることを受け止める努力をしている。施設訪問の際は、全職員が聴く姿勢をもち、対応している。</p>		
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族の思い、状況等を確認し、必要な支援を見極めるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを 利用するために、サービスをいきなり開始 するのではなく、職員や他の利用者、場の 雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談 しながら工夫している。</p>	<p>本人や家族にできるだけ見学してもらい、安心感を持っていただける ようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場に おかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている。</p>	<p>調理や地域の生活習慣、また、人生の先輩としてアドバイスを受けるな ど、教わる機会が多くあり、共に生活する者として支えあう関係を築く努 力をしている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場に おかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を 支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族には、できるだけ訪問していただき、ホームでの生活を知ってもら うように情報を提供するとともに、家族の思いを大切に受け止め、共に支 えあう関係を日々の築く努力をしている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、よりよい関係が築いていけるように 支援している。</p>	<p>家族や本人の思いがすれ違わないように職員が仲介し代弁したり、 日々の生活の様子を知ることで理解が深まり、互いがよりよい関係が築 いていけるように支援に努めている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている。</p>	<p>入居時の聞き取りや日常会話の中で馴染みの人や場所を知り、継続して 交流できるように支援している。(ボランティア活動や知人宅への訪問、 馴染みの美容院、商店等へ出かける。)</p>		
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとり が孤立せずに利用者同士が関わり合い、 支え合えるように努めている。</p>	<p>日常生活の言動から利用者間の関係性を把握し、カンファレンスや申し 送りで職員が共通理解につとめている。誤解や対立時には見守りや介 入、し関係の修復の支援を行っている。また、おやつやお茶を利用者の 居室で摂るように設営し、気軽に利用者間の行き来ができるように工夫 したり、食事やお茶の声かけを利用者をお願いしたり、共同の作業をす る中で、支えあう関係作りに努めている。</p>		
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>32 サービス利用(契約)が終了しても、継続 的な関わりを必要とする利用者や家族に は、関係を断ち切らないつきあいを大切に している。</p>	<p>利用者と共に退所された方への面会や、家族への状況確認等実施し、 付き合いの継続に努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	十分とはいえないが、日々の関わりの中から、直接の言葉だけではなく、行動や表情からも本人の思いや希望、意向の把握に努めている。	○	ゆっくり話を聴く時間を設けたり、個別の行動を支援する機会を持つことで、本人の意向を汲み取って行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面接や入居後の家族の面会時や日々の会話から情報の把握に努めている。	○	情報を積み上げ、その人らしさの個別化を明確にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活を目的意識的に観察し、個人記録に記し、総合的に把握するように努めている。	○	日々変化する心身状況、有する力を的確に把握し、対応できるように見極めの力を養って行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や本人の意向を伺いながら、日々の観察を基にカンファレンスで意見交換しながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直しを行っている。日々の変化については、ケアプランを補足するものとして、「申し送り」を随時計画として機能させている。状態変化時は見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活の様子や心身の変化の気づきを個別記録に記録し、情報を共有すると共に介護計画の見直し時の「評価」や「新たな課題」に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察や消防、「支える会」等必要に応じて協力体制ができています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特に行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特に行っていない。	○	必要性が生じた場合は、連携をとって本人の支援に結び付けていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の範囲は限定(せたな町、今金町)しているが、希望の病院の受診や通院の支援を行っている。また、受診時の同行を通して、かかりつけ医との関係を築く努力をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域には専門医が不在のため、適切な支援ができていない。	○	必要性が生じた場合は、専門医に相談し、本人の支援に結び付けていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入院時の心身状況や介護上の注意点等の情報交換や、入居後の健康管理について気軽に相談できる関係を築きつつある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	主治医の状態説明時はできるだけ同席させていただくと共に、お見舞いや家族との情報交換を行い、状態把握に努めている。また、退院後の介護方法の助言を受け、早期に退院ができるように病院関係者と連携を深めるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族の意向を大切にしながらも、当ホームの対応の限界を理解していただいた上で、その都度、本人、家族、医療関係者と職員が同席し話し合いをもち、方針を共有している。カンファレンスを開催し、職員の理解を求め方針を共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>今後の変化に応じて、その都度検討をおこなう。</p>	
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>基本情報、生活歴、ケアプラン、生活上の注意点等の情報を提供し、住み替えによるダメージを極力少なく済むように支援しています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>心がけてはいるが、誇りを損ねない言葉かけは十分とはいえない。また、申し送り等の情報交換時に他利用者に聞こえることがあり、プライバシーの十分な配慮がなされていない。</p>	<p>○</p> <p>人生の先輩として、尊厳をもって接する態度を身につけるよう日々の点検やカンファレンスで取組みを強化していきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>わかる力に合わせた説明や決定しやすいような問いかけの工夫をしている。本人が思いや希望を気兼ねなく表せるように、日々の信頼関係の構築に努めている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人のペースを大事にしながらも、散歩や買い物等外出の提案をしながら自己決定していただくように努めている。行事等忙しい時はついつい職員の都合に、利用者が合わせている様子がみられる。</p>	<p>集団に合わせるのではなく、いかに個別の希望を引き出し、実行していくか今後の課題であり、取り組んでいきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の行きつけのそれぞれの美容院に行けるように支援している。外出時にはお洒落着に更衣したり、自分で選べない方にはお手伝いしている。本人の希望に添って、化粧品や好みの衣類の購入時に付添うなど身だしなみやおしゃれの意欲が損なわれないよう支援をおこなっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みを聞き取るだけではなく、食事の動作やスピードや「残し」を観察し、好みを把握し献立に取り入れている。その人のできることを見極めて、食事作りや片付けに参加してもらい、生活の張りになっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は本人の希望を聞いて提供している。おやつはできるだけ希望を聞いているが、糖尿病等本人の状況に応じて量の調節をおこなっている。また、タバコは喫煙場所を一定に決めさせていただき、タバコ、ライター、吸殻の管理を職員がおこなっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンシートを活用し、トイレでの排泄の声かけをおこなっている。髪パンツから布パンツへの変更の取組みをおこない、日中は成功し、本人の意欲につながっている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	声かけし、希望者に入浴してもらっているが、職員の体制で、時間帯の限定をさせていただくときがある。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調やその日の活動量によって、休息を促している。夜間の不眠時には、無理に眠るように強要せず、職員が話し相手になったり、ホットミルクを飲んでいただいて、安心した眠りができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人に合わせて、家事仕事や買い物、ドライブ、散歩、ゲーム、読書、休息等役割や楽しみ、気晴らしをおこなっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の了解の下、基本的には、所持することを制限していません。実際、お金を自分で持っている方もいます。また、家族よりお金を預り、事業所が管理している方でも、必要に応じお金を渡すようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分にあわせて、買い物や散歩、ドライブ、外気浴等楽しんでいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見、紅葉狩り、蕎麦屋での外食、温泉入浴等に出かけている。	○	家族の協力も得られるようにしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時にはいつでも家族などに電話できるように支援している。ただし、家族がそのことが負担に感じているときは職員が対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	笑顔で出迎え、見送りし、気軽に来やすい雰囲気づくりを心がけている。特に、時間の制限はなく、いつでも訪問していただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設前研修したが、具体的な行為を正しく理解しているとはいえない。再度の研修が必要とおもわれる。	○	職員全員で研修をしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアを実施しているが、その弊害を全職員が理解しているとはいえない。	○	職員全員で研修をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	他居室に間違えて入室したり、トイレ以外の場所で排泄することがあったりと、居場所の把握や安全の配慮が不十分である。夜間は定時の巡回のほか、必要時に安全確認が行われている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	調理器具や作業内容は一人ひとりの状態に合わせておこなわれており、必要に応じて見守りや介助を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	移動補助具の検討や介助方法の工夫など、一人ひとりの状態を把握し。ヒヤリハットの活用やカンファレンスで検討し、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	開設前研修で普通救命講習を受け、その後カンファレンスで再確認しているが、講習を受けていない職員もあり、十分とはいえない。	○	全ての職員が、年1回の応急手当の勉強会を実施し、体験・体得・習得するようにしていきたい。また、消防署等の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修も行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	開設前に講習、訓練しているが、開設後は行っておらず、利用者も参加しての訓練が必要である。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居前に、できるだけ抑圧感のない意欲を持った活動的な生活を目標としていることを説明すると共に、限られた職員での対応の中で想定されるリスクを説明し家族から同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を職員は把握しており、本人の訴えはもとより、表情や顔色、行動の変化等を観察し、個人記録に記すと共に異常発見時は、管理者や他職員に報告、連絡、相談を行い速やかに対応している。必要時には病院受診し、家族にその報告を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別記録に薬の処方箋が綴られており、薬の目的や副作用等が記載されており職員が情報を把握できるようになっている。処方の変更時には申し送りや再度情報の共有の確認をおこなうとともに、症状の変化の観察に努めて取り組んでいる。また、その人の状態によって、薬の手渡しや、飲み込み確認などの支援をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘がもたらす症状(食欲不振や血圧上昇、腹痛、不快感、不穏など)を理解し、オリゴ糖やヨーグルト、野菜や果物、水分を摂取するよう心がけ自然排便を促すように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時と就寝前には口腔ケアを実施しているが、昼食後は一部の利用者のみ実施している。口腔内の汚染は、においや不快感だけではなく、誤嚥性肺炎や糖尿病などの全身症状に影響されるといわれている。今後、全ての利用者が毎食後ケアの実施に取り組んでいきたい。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量の摂取記録と一人ひとりの状態や好みに応じて提供されている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	開設前研修を行い、マニュアルを作成。職員がいつでも確認できるようになっている。必要時にカンファレンスや申し送り対策を確認している。外出時や調理前のうがいと手洗いの徹底、塩素による掃除の実施をおこなっている。また、利用者及び家族に同意をいただき、利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。居室に濡れタオルをかけるなど湿度対策をしている。面会者へのマスク着用と手指の消毒をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板、調理器具は塩素消毒し、衛生に注意を払っている。食材は毎日買い物に行き、翌日の昼食分までを購入し、新鮮な食材を使用するように心掛けている。また、生鮮食品は速やかに冷蔵庫にいれ保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入口にプランターなどで飾ったり、大通りに木製の看板を設置している。また、玄関前階段には手すりが付けられ、安全に配慮されている。車椅子用のスロープも併設されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	まゆ玉飾りやクリスマスツリー、七夕飾りなどで季節を感じていただいている。また、利用者が手すりを利用して、洗濯物を干し、生活感あふれる空間になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや食卓イス、廊下のベンチなど置いてあり、思い思いの場所で寛いだり、日光浴したり、気の合った方と話したりしている。また、他利用者の居室を訪問したり自由に行き来している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には以前から本人が使っていたものを持ち込んでおり、自由に使用している。その方によっては殺風景に感じる部屋もあり、今後、本人の意向や家族の思いも聞きながら、居心地良く過ごせる部屋となるよう工夫が必要である。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度、湿度はこまめに調節し、快適な状態を保つように配慮している。トイレは常時喚起されているが、排泄後や失禁の処理に臭いがこもってしまうことがあり、強制換気が必要。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室に手すりが設置されている。また、玄関には靴の履き替え時に座るベンチが置いてあり、できるだけ自立した生活ができるように配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	夜間のトイレの場所の混乱を防ぐために、トイレの夜間灯を点けている。また、居室前に、大きく名前を書いて色紙で目立つように工夫をしている方もいる。一人ひとりの「分かる力」を見極め、「分かる力」を活かせる支援を行うとともに、状態が変わり、新たな混乱や失敗が生じた場合は、都度職員同士で話し合い、本人の不安要素を取り除けるよう試みている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム周辺にベンチを置き、散歩や外気浴や畑作業時の休憩に利用している。また、ウッドデッキでは、外気浴をしながら作業をしたり、お茶やおやつを楽しみむことができ、多様に活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ○②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
98 職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

①穏やかな暮らしを基本に据えながら、その中で、できるだけ外出する機会を設け、四季を肌で感じていただくようにしております。②室内においても、廃用症候群にならないため、本人ができることを見極め、できることはやっていただき、脳と身体を使うようにしております。③地域の行事等には、積極的に参加するようにし、地域との交流を図っております。